

【足立区地域自立支援協議会相談支援部会】会議概要

会 議 名	令和 5 年度 第 3 回 【足立区地域自立支援協議会相談支援部会】		
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター		
開催年月日	令和 5 年 1 2 月 1 3 日（水）		
開 催 時 間	午後 2 時 0 0 分～午後 4 時 0 0 分		
開 催 場 所	障がい福祉センター 1 階研修室 3		
出 席 者	森 和美 部会長	青木 綾子 委員	中出 敦子 委員
	小杉 信之 委員	石井 達雄 委員	関口 久美 委員
	片桐 愛子 委員	山本 克広 委員	オブザーバ 末永 健
欠 席 者	谷内 秀和 委員 山田 尚美 委員 オブザーバ 田口 由香		
会 議 次 第	1 開会 障がい福祉センター所長挨拶 2 議事 （1）相談支援の立ち位置から見える足立区の地域課題について（まとめ） （2）次年度の取り組み課題について（意見交換） 3 事務連絡		
資 料	配布資料 【資料 1】次第 【資料 2】席次 【資料 3】足立区の障がい福祉サービスの状況 【資料 4】 2 3 区の障がい福祉サービスの状況 【資料 5】令和 4 年度相談支援部会議事録 （第 1 回、第 2 回、第 3 回、第 4 回） 【資料 6】令和 5 年度相談支援部会議事録 （第 1 回、第 2 回）		
そ の 他	公開状況：公開 傍聴：0 人		

様式第2号（第3条関係）

（協議経過）

1 障がい福祉センター所長挨拶

○佐々木事務局員

ただいまから第3回相談支援部会を開催させていただきます。まずセンター所長からお願いいたします。

○山本委員

皆様、こんにちは。障がい福祉センターあしすと所長の山本でございます。日頃から大変お世話になっております。前回9月の開催時はかなり暑かったのですが、今日はもうだいぶ寒くなったということでえらく違いがございますけれども、本日もご参加いただきまして誠にありがとうございます。

相談支援部会といたしましては、これまで令和4年度、5年度にわたり、相談支援の立場から足立区の地域課題に焦点を当てて、意見交換を重ねていただいております。本日の部会では、まず過去の意見交換から浮かび上がった問題を整理して、相談支援が果たせる役割や作成したツールの有効活用方法などをご協議いただきたいと思います。続いて、来年度の取り組みに向けて皆様のご意見をうかがい、課題解決の優先順位を付けるなど実施の方向性を確認したいと存じます。皆様の知見とご協力を元により効果的な方針を共有して参りたいと思いますので、本日もぜひ活発な意見交換をよろしくお願いしたいと思います。

それからこの場をお借りしまして、障害者週間記念事業、本庁舎の方で実施いたしましたので、ご報告させていただきたいと思います。11月30日から12月6日までの7日間行いまして、来場者数は4036名でした。昨年もそうですし、コロナ渦の前よりもたくさんの方にお越しいただきました。色々ご協

力、またご来場等ありがとうございました。それではどうぞよろしくお願いいたします。

○佐々木事務局員

ありがとうございます。それでは議事に入る前に今日の配布資料です。お一人お一人には、相談支援部会次第と裏に席次表が載っている1枚が、今日の皆さんへの配布物です。それからテーブルの上に、1組ずつ乗せていただいておりますが、今日はまとめの作業ということで、令和4年度から始まっているこの取り組みに関して、思い出もしていただきながらということで、全議事録を机の上に置かせていただいておりますので、議論をされる際に、参考にしていただければと思います。それから表について、A4の表とA3の表をお配りしていますが、これについて簡単に説明をさせていただきます。これも今後の、足立区を考えていくのにももしかしたら必要かなということで、作らせていただきました。A4の横のものにつきましては、足立区の障がい福祉サービスの状況ということで、タイトルはつけさせてもらいましたが、足立区の基礎数です。人口や障がい者数などを左側にならべており、右側は障がい福祉サービスの種別ごとの足立区の施設の数です。それから実際に支給決定をされている方の数字を入れさせていただいております。同じようにA3の横の表ですけれども、これは、足立区の課題を見ていくというのが我々のやっていくところですが、実際に東京23区はどういう状況なのかということも少し広く見れるといいかもしれないということで、数字の方を拾っています。23区の状況を、書かせていただいております。これの出元は、東京都福祉保健局の月報で、実際の数字をとっています。それから施設の関係で、事業所数につい

ては福ナビです。東京福祉ナビゲーションで出ているものを、これはちょっと加工したものになります。今23区の状況を確認しながら数字に起こさせていただいているものです。参考にいただければと思います。

それから今回も、同じように議事録は録音させていただいて、後でしっかりと起こせるようにしたいと思っておりますので、記録の方は取らせていただいております。発言の際は、お名前を言っていただいてから発言をしていただきたいのと、きちんと正確に拾えるようマイクでの発言をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは議事の方に移ります。ここからは森部会長よろしくお願いいたします。

2 議事

○森部会長

改めましてよろしくお願いいたします。本日はグループワークということで、2つのグループに分けさせていただいて、一つはこれまで今年度取り組んできた足立区の課題、昨年、今年ですね。2カ年で取り組んできたもののまとめ。それともう一点は次年度に向けての取り組みということで、皆さんで話し合いをしていただいて、各グループが最後発表していただくという流れになります。詳細をやっていただくことは事務局に説明していただいてもいいですかね。はい、よろしくお願いいたします。なので、2時、3時半位までは、そんなグループワークをしながら進めていきたいなと思っておりますのでご協力いただければと思います。手順の方、事務局の方から説明をお願いいたします。

○佐々木事務局員

手順についての説明をさせていただきます。今日は大きく二つということで、一つ目はこ

れまでもやってきたことのまとめ。もう一つは次期相談支援部会の方で検討していくこと。二つの取り組みをしていただきます。それでははじめのものは、これまで行って、2年間通してですね、足立区の現状を皆さんで見えたりとか、課題の方も共有したり、いろいろなものを変更、作成してきたと言う所があります。この辺を、改めて話し合いをしていただいて、ホワイトボードを用意してありますので、そこに書き込みをしていただきながら、見える化をしていただきたいと思います。足立区の地域課題の方までまとめましたら、その中から、相談支援部会として取り組めることはどういうものがあるかというところもお話いただき、実際に選んでいただいたものについては具体的な取り組み、こういう風にする则可以みたいなところをまたお話しをしていただいて、まとめになるかなと思います。

二つのグループでできたら、報告をしながら確認をしていくといったような作業を、これからしていただこうと思います。それから適宜ですね、必要でしたらということでグループに1台ずつPCが入っておりますので、そういったようなものも使いながら確認をしていただければと思います。それから地図についてですが、前回皆さんにも触っていただいていたところですけども、入り方として、事業所をベース入っているんですけども、やっぱり障がいベースで入っていくと見やすいかもしれませんというようなご意見もいただいたところです。それで全サービス種ではないんですけども、一先ずグループホームと相談支援の部分については、障がい種別ごとに入れるように作り方を変えています。今こちらに映っているものですけども、これはあの相談支援のもので、少し字が潰れてしまっていますけれども

も、児童、それから身体、精神、知的、難病という形で、障がい種で分けたものになります。例えば児童の相談支援というふうにしますと、このような形で出てくるので、ここからですね、「お近くね」、「どういうところがあるかな」なども見ていただきながら、使っていただけるのではないかと。それから知的障がいの方ということであれば、これまでは全部の事業所が出てきていたもので、そこから知的の対応ができる所を探すとなっていました。今度は知的というところを押していただくと、対応できる事業所が地図上に並んでくるというような形で作らせていただいております。同じようにグループホーム。グループホームについても種別に分けてありまして、例えば知的障がいのある方、グループホームも探しているとなりますと、ここに対応できるとグループホームが出てくるというところになっています。あとは前回ですね、あだちの里さんの方が非常に数多くグループホームを持っていられるということで、全部があだちの里地域生活支援センターということで出てきていて、よくわからないという話もありました。それなので今回はですね、あだちの里さんのところはグループホームの名前までということにさせていただいておりますので、若干修正もしながら作ったところになります。ですのでこのあたりの使い勝手もテーブルのところで確認できますので、やってみていただいて、また改めてご感想もいただきながらいいものを作っていければと思いますので、よろしくお願いします。

時間が充分ないかなというところがありますけれども、各テーブルでですね、進行の方、それからホワイトボードに書く方みたいなところも決めていただきながらですね、進めていただきたいなと思います。進めるにあたってわからないことがある場合は、事務局の方

も入りますのでよろしくお願いいたします。
それではよろしいでしょうか。

～グループに分かれて検討～

○森部会長

それではすみません。一回締めさせていただき、中間のご報告聞かせていただけたらと思います。今足立区の地域課題のまとめというところを出していただいて、具体的な取り組み方法まで、もし出なくても構いませんので、どのぐらい進んだかなっていうのを発表していただけたらと思います。どっちが1グループで、どっちが2グループ。青木さん、中出さんでいいですか。お願いします。

○ 青木委員（1グループ）

うめだあけぼのの青木でございます。話している最中にどんどん書かせていただいておりますので、皆さん後程、2グループの方は近くまで来ていただければと思いますが、足立区の現状としてということで、例えば人口が多い区なんだみたいなとか、その人口に比して障がい者が多い区なのではないかというような話ですね。事業所でいうと相談支援事業所はあるのだけれども、一人事業所、一人で事業を運営されている方も多いのではないかという話もありました。足立区ってどんな方達が暮らしているか、どんな状況なのかっていうことかというと、集える人とか会える人は相談することができていたり、援護係に行くと模範回答が得られるであるとか。一方で、例えば集えない人、会えない人が孤立していたりとか、本当だったら相談につながりたいのになあっていう方が相談につながりにくい現状もあるのではないかなというような、そういう現状があるのではないかなということですね。あと世代間の差も非常に広がってい

る状況ですので親、保護者の方、ご家族の考え方とか、保護者の方の自己実現に対する考え方の違いなどもあったり、あるいはデジタルツールを扱うことができる人達が、早く資源を見つけることができるような状況になってるんじゃないかっていう話でした。

あと資源マップについて確認しました。資源マップはすごい成果だなと思ったんですけど、手元に福祉事務所があるみたいっていう発言があったりしましたね。あと資源マップは、改めてやっぱり見てみると、例えば家からの距離感がわかるとか、一度に検索できるとか、そこからホームページに紐づいていてつながれるとか、人を介すことなく、つまり関わる相談した相手の能力に関係なく、一瞬にして色んな情報を得ることができるという良さがあるなんていう話もありました。足立区の地域課題としてはですね、需要と供給のバランスは良くないかも、色々なその資源ですね、バランスの悪さであるとか、つなぐ場所つなぐ人を確保していくっていうことは、やっぱり必要なのかな、あるいは相談先に満足できてない人もいるんじゃないか、なんていうことも意見としてはあります。例えば親なき後の相談課のような、縦の親亡き後を見据えて相談できる、そんな課がもしかしたらあってもいいのかもしれない状況なのかなってというような話も出ています。

あと地域課題としては、例えばPR不足のようなものが、例えば基幹さん、民生さんとかもあるのかもしれないかなというご意見もありました。ただ、一方で人に任される部分もあるんですけども、やっぱりその熱意だけでは対応できないとなった時には、人が活用できるような資源も増やしていく、あるいは相談できる人、事業所も増やしていくのも必要なかななんてことですね。支援者も支援が必要な方もつながりが必要、仲間を作る

こととかネットワークが必要で、例えば資源マップがあったとしても、そこからこぼれる方、そこにアクセスできない方については、別の方法できちんと相談行動ができる、そういう仕組みがやっぱり必要なのかなということですね。

2年間で、今期の2年間で、色々な見える化の成果としてはものすごくあの頑張ったねっていう、頑張ったんですよ。すごい頑張っていたいて、網羅されている成果物ができたかなというふうに思いますが、ただこれやっぱりできたねで終わらせちゃいけないのが、やっぱり私たちの役目なのかなってところで、じゃあどう活用していくかどう取り組んでいくといいかということになると、例えば資源マップを一般に公開するのはどうだろう、ホームページとかに公開するのはどうだろう、あるいは足立区のホームページに公開するのだとか、例えば区のホームページに公開しないとしても、例えば相談支援専門員はデータとしていつもアクセスできる、あるいは民生さんとか親の会に配布するのはどうだろうか、あるいは相談支援専門員ネットワークで共有するのはどうだろうか、少しそのレベル、公開のレベルが違いますけれども、とにかくできたと終わらせず、共有する、使っていくってことを目指すのはどうだろうか、あと民生さんとか、2グループの中で連携の強化っていうのが書いてありますけれども、障がい相談支援専門員が他の領域の方と繋がっていくってこともすごく大事で、その仕組みを考えていくことも必要なんだなと思いました。あと相談支援専門員の力量をそのこういうそのツールをね、活用していくには力量をどう上げていくかを考えることとか、相談支援専門員のそもその数をどう増やしていくかを考えるということも必要なかなあ、相談できる人は安心して相談できる

人を増やしていくっていう意味では、数を増やしていくことも必要なのかなっていう、そんな話合いを1グループではしました。以上です。

○ 森部会長

中出さんお願いします。

○ 中出委員（2グループ）

第2グループです。中出です。お願いします。まず2グループで足立区の現状を出してみました。強みの部分ですが、社会資源が豊富だよねっていう話が挙がりました。あとは希望していればつながる先もあります。相談窓口があるよねっていう話が出ています。それと5か所、地区ごとに援護係さん、保健センターのサポート窓口があるという所が強みかなというところで、人が集まりやすいんじゃないかっていうところで話が出ました。

それを受けて地域課題っていうところで三点に絞られています。一つ目が全ての疑問がわかる仕組みになっていないということで、これ具体的にですね、利用する方の側からすればご本人が問題を抱えているっていうふうにはわかっていても、例えば作業の関することだったら作業所、医療面だったら訪問看護とか途切れ途切れになってしまうので、そうじゃなくてその人の生活まわってですね、すべて抱えて疑問がわかる、疑問っていうか課題がわかる仕組みだったりとか、人がいないっていうところがあります。二つ目、数はあるんですが、充足してないサービスがあるということで、人材難も含めてですね、足立区には例えばですね、強みになるところでは居宅介護なんかたくさんあるんですけど、たくさんある傍らですね、それなのにヘルパーが足りてないとか、なかなかサービスを使いたいのに使えてないっていうところがあるかなと

いうところで、課題に挙がっています。三つ目、自分から相談できない人への寄り添いアウトリーチが難しい状況にあるっていうところで、先程1グループから挙がったんですけども、自分から相談できる人は相談窓口に行けるんですけど、そうじゃなくて引きこもりの方だったりとか、なかなか外に出れない方へのアウトリーチというのが難しい状況があるということで挙がっています。

それを受けて相談支援部会として取り組めることにつながるんですけど、これは理想になります。1グループで考えた理想案として、一つ目福祉まろごと相談っていうことで、キーワードで答えが出たりとか相談できるシステム、ITの活用というところも含めて、相談に行かなくても何かしたいワードを打ち込めば例えば気軽に相談してくださいとか、そういうシステムがあるといいよねというところになりました。二点目、数が充足していないサービスっていうところでは、人材難も含めてなので、今働く側の処遇改善、ちょっと現実的なんですけども、そこと相談支援専門員に限らずみんなが相談員であればいいよねっていう話が挙がりました。三つ目ですね、自分で相談に行けない人に対して実態把握ができてるといいかなというところと、特に単身引きこもりの方っていうのは、漏れることなく全員把握できるといいんじゃないかなっていうところで挙がりました。

具体的な取り組み方法なんですけど、ここはもう一、二、三まとめてですね、連携の強化というところに話が繋がりました。日頃から声をかけられる関係性があるといいなというところで、医療、教育、高齢、生保、金銭面の相談のところと、地域住民の理解、知識も含めて、もうまるまる垣根もなく、なかなか情報管理ってところが難しい状況があるんですけど、連携できると本当はいいかなって

いう話になってます。地域住民の理解、知識というのは、サービスだとか専門分野とかそういうの関係なくですね、実際のところ学校時代から、例えば教育を受けて精神分野だったりとか知識があると、やっぱり周りから見てもあの方はどうなんだろうっていう気付きになったりとか、その方からの相談に繋がるといったところも期待できるかなという話があったところです。

○ 森部会長

ありがとうございました。どちらのグループも、すごくよくまとめてくださって。ポイントになるのは、そんなに大きく差はないのかなっていう気が若干しました。やっぱり相談の窓口にどういうふうにつながっていくか、連携をどういうふうにとっていくか、連携の方法だったりとか、多職種連携っていうんですかね、投げかけ方であったりとか、重層的なとか、縦にも横にもやっぱり繋がっていきななきゃいけないという、やっぱり皆さんの共通したものなんじゃないかなと思います。あとは処遇改善ね、相談員の数を増やすだったりとか、人材不足をどう補っていくかというところかなと思います。

各グループの内容だけでなく、お互いの内容を見ていただいてですね、このあともう少し次年度に向けての取り組みということで、少し時間短くなっちゃうんですけど、50分まで、まず次年度何から始めようかなっていうところを少しまとめていきますが、結論出なくても構わないので揉んでいただければと思います。50分までに次年度まず、取り組んだらいいかな、どういう具体的なやり方でやっていったらいいか、ご意見として出していただけたらと思います。よろしくお願いします。

～グループに分かれて検討～

○ 森部会長

お話が盛り上がっているところですが、お時間ですので締めさせていただきます。では次年度の取組み、次年度部会で検討していきたい内容についてお知らせください。また1グループからでもいいですか、2からがいいですか。

○ 青木委員

1グループはですね、IT化ですね、キーワードになるのは。IT化することで、色々なバリエーションがあるはずだということで、例えば横の繋がりを作るのに、今ラインとかすぐに相談できる、そういういろいろな仕組みがあるので、そういうものも含めて瞬発的に、あっこれ聞きたいなというのをわざわざ行かなくても、会いに行ったりしなくても、窓口とかに行かなくても相談できるような仕組みだとか、そういうことを考えていくのはどうだろうかと思えました。

あと2グループにあった、みんなが相談員になるということを考えること、あるいはその安心して相談できる仕組みづくりを改めてどうしていくのかっていう、今年度のこの今期の2年間の取り組みを踏まえた上での仕組み作りを、更に考えていくといいのかなとか、それで民生委員さんは必ずその会議に出ねばならないという決まりがあるようですが、私達相談支援ネットワークはなかなか参加率が上がらないというのが課題としてあるとなった時に、どうやってネットワークの参加を上げて、結果的にそれが質の向上につながるかというところにつながっていくのかなということも、検討していくのかなっていうようなお話になりました。以上です。

○ 森部会長

では2グループさんお願いします。

○ 中出委員

2グループ中出です。三つ挙がりました。まずまるごと相談の検証ということで、まるごと相談をまず設置しなきゃいけないんですけど、どこかに窓口を設置して、今は一つのことを相談したら、これうちじゃないですよとか、これはこっちに相談してくださいっていうふうになってしまうんですけど、そうじゃなくて、まず何でも受け止めてくれる窓口を作れるといいかなっていうところです。ゆくゆくは、それがちゃんと充分かどうかという検証をしていって、議論していけるといいかなというところで挙がりました。

二つ目、部会、地域自立支援協議会の中の部会がある中で、そこと相談支援部会だけでなく他との連携が取れるといいかなというところで、今までの話の経緯もあって引きこもり支援協議会との連携だったり、意見交換の場を設けるっていうのはどうだろうかという話が挙がりました。

三つ目家族会だったり、親の会、父母の会を活かしていくというところで、まずはみんなの、ゆくゆくはなかなか相談に行けない方達の相談にアウトリーチで入っていければいいんですけど、まず最初は家族会、親の会、父母の会で、例えば参加してそこから声を拾ってっていうところで、情報を集めていたり、連携を図っていたり、意見交換っていうところをしていくと、何かしら動きとして進められるんじゃないかと挙がったところです。

○ 森部会長

ありがとうございました。二グループともありがとうございました。やっぱり相談のど

んな窓口とか、どんな繋がりを作っていくのかってっていうのは、大事なことなんだなと感じたところです。今期とこの2年前のシーズンの時にあの水害時っていうところで、皆さんに協議していただきましたが、次年度に関しても、もしかしたらそんなこと絶対ないとは限らないですね。こんな話をしてねっていうことが出てくるかもしれないところではありますけれども、今年度最後の今日は部会になっておりますので、たぶんこのメンバーがそのまま揃うことはもう二度とないかもしれないですけども、皆さんから出たどちらのグループからも出ている、やっぱり横のつながり、家族会、親の会、父母の会ですね、あと民生委員さんも含めて、ここに行政もしっかり取り込んでいくっていうことが必要なんだと思いますので、そこをどういうふうに繋げていくかっていうのは、しっかりやっていかなきゃいけないところではないかと思います。あとIT化、ネットワークっていうところにも繋がるというのに、どういう風にそういう最新の武器っていう時代に沿った武器を活用しているところも、次回1年間で検討していけたらいいんじゃないかなっていうふうに思いました。

はいでは、活発な意見たくさんあの出していただいてありがとうございました。これで私に課せられたお題は取り組めたかと思うしますので、5分残して事務局に返したいと思います。よろしくお願いします。

○ 佐々木事務局員

今日は皆さんありがとうございました。今部会長の方からもありましたけれども、今日が今期の最終ということになりました。これまで2年間取り組んできたことを、総括していただくというところで進んでいったというところでは、この今日の部分をですね、また

本会議等でご報告させていただいて、新たなものに挑戦していくというところになろうかと思います。一応今期最後というところでは、おっしゃるようにこのメンバーで集まるのが最後かもしれないというところがありますけれども、自立支援協議会自体はまだまだこの先もずっと続いていくわけです。それで相談支援の部分に関しても同じようになりますので、また相談支援部会としてですね、再度こちらのところで協力したいという方もいらっしゃるかなと思いますので、また体制変更もある中ではありますけれども、年度の変わるタイミング位のところではですね、次期に向けてのお話を進めさせていただこうと思いますので、よろしくお願いいたします。それで来期の分に関しては、本会議の後に招集みたいなイメージになろうかと思いますので、実際には7月とか、それ位の時期に第1回目が行われるのではないかと思いますけれども、またそこに関してはご案内の方はしていきますので、よろしくお願いいたします。

○ 和田事務局員

I C Tの件だとか、まるごとの話も出たので、今足立区の方で目指してるところで、既にプレスされている健康づくりセンターのイメージの資料を印刷しましたので、そちらもこれからまた皆様のご意見を踏まえて今後の形を作ることになるかと思うので、配布させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○ 佐々木事務局員

それでは以上をもちまして、第3回相談支援部会を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上